

いわた

文化財だより 第247号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和7年10月1日発行

目次

- 磐田市歴史文書館第29回企画展
見付大久保家を彩った人々・・・P1～2
- ふるさと歴史たんけん隊 見付宿を歩こう・・・P3
- 今年もやります！遠江国分寺まつり・・・P4
- コラム『天然記念物と中世石塔』木村弘之・・・P4

磐田市歴史文書館第29回企画展

見付大久保家を 彩った人々

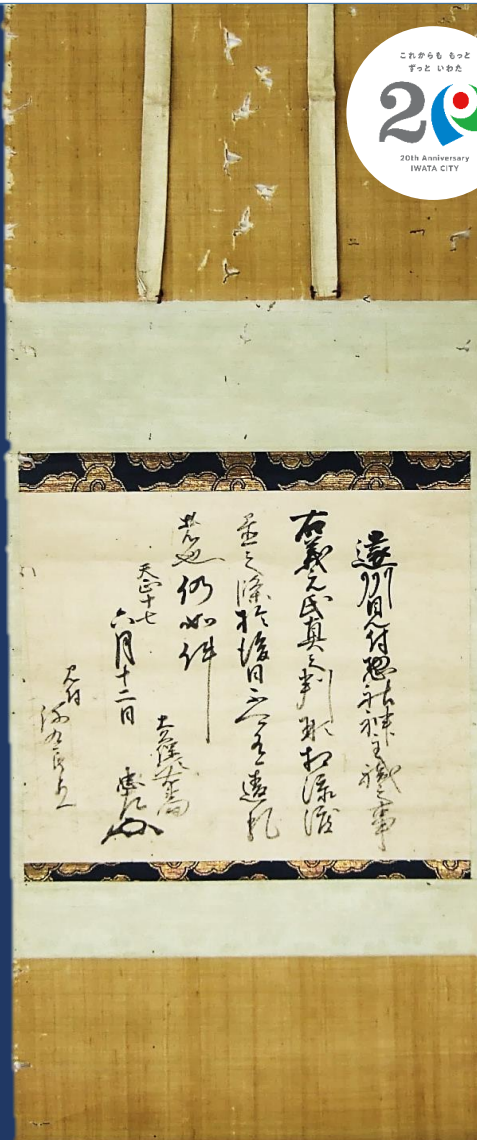
—譲る・繋ぐ—



大久保春野



大久保忠尚



期間 令和7年11月4日(火)～12月19日(金)

時間 9時～17時(入場は16時30分まで) 休館日:土、日、祝日

—11月16日(日)、30日(日)は特別開館—

会場 磐田市歴史文書館(竜洋支所内)／磐田市岡 729-1)

歴史文書館キャラクター
「文字朗」

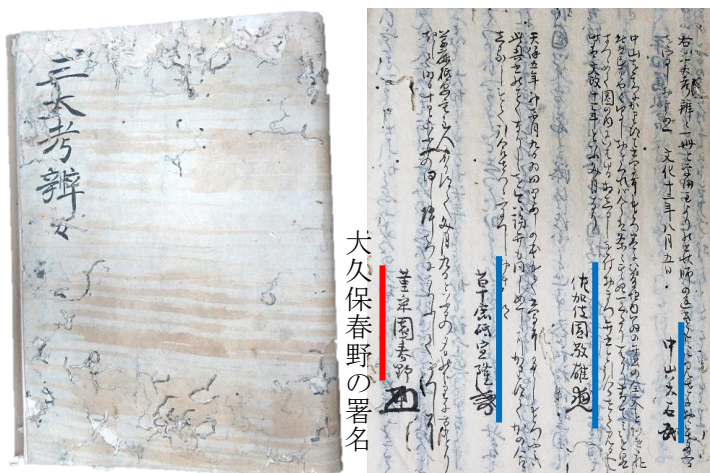


今回の企画展では、見付の惣社である「淡海国玉神社」の神官を代々務めた大久保家の歴史を、「譲る」と「繋ぐ」をキーワードとして紐解きます。

戦国時代に一言坂の戦いで活躍した始祖・大久保忠佐から、幕末に「遠州報国隊」(※1)に参加し、明治維新後政府に出仕した大久保忠尚、春野父子に至るまでの、淡海国玉神社を守り続けてきた大久保家の人々と、これに関わる人々の人間模様を家督相続に関する文書や書簡、写真等をとおして紹介します。

(※1) 戊辰戦争の際に、浜松・磐田の神官や国学者を中心に結成され、討幕軍に従軍した。

みどころ1 忠尚、春野を倒幕運動に向かわせたものは…



三大考辨々写本

忠尚、春野は、江戸時代後期の国学者である八木美穂^{よしほ}や石川依平^{よりひら}のもとで国学（※2）を学びました。

やがて、慶應4年（1868）に鳥羽伏見の戦いが起きると、遠州報国隊に参加して討幕軍に加わり、明治新政府樹立に貢献しました。

しかし、大久保家は、先祖の忠佐が後に江戸幕府を開く徳川家康に従って各地で奮戦し、淡海国玉神社の神官に任じられ、以降代々神職を務めてい

たほか、江戸時代中期には、一時母方の西尾姓を名乗りますが、願い出て大久保姓に戻すほど、徳川家臣であったことを代々誇りとして受け継いできました。それにもかかわらず、父子を討幕運動に駆り立てたものは一体何だったのでしょうか。

写真は、大久保家に残された蔵書で、平田篤胤^{あつたね}（※3）が著した『三大考辨々』^{さんだいこうべんべん}（※4）を春野が書き写したものです。巻末には、本書を平田派の3人（青線）が書き継いできたことが記されています。平田派の思想を学び、仲間と共に傾倒していったことがうかがわれる資料です。

（※2）江戸中期から後期にかけて発達した学問。日本人固有の精神や文化を『古事記』や『日本書紀』など日本の古典から明らかにしようとするもの。（※3）江戸時代後期の国学者。国学の研究にはげみ、尊王攘夷思想に影響を与えた。（※4）国学書『三大考』に対し、篤胤が反論や自身の考えを記したもの。

みどころ2 故郷に戻れない春野の心境は…



只来の別荘と忠利たち（現磐田郵便局付近）

ら読み取ることができます。春野の「大久保家存続の願い」は、どんな形で表わされていたのでしょうか。

徳川家の静岡移封後、春野は、遠江・駿河に移住した旧幕臣との紛争を避けて、報国隊員に東京への移住を勧める「移住論」を主張し、忠尚と共に東京に残ります。

しかし、春野は大久保家や淡海国玉神社の存続の責任感も強く感じていたはずで、父への手紙でも「今更戻れない」と心情を吐露^{とろ}しています。

大久保家と神官職を譲った義弟忠利夫婦や見付の人たちへの思いは、多くの書簡から読み取ることができます。

中央図書館展示 歴史学習会

令和8年2月11日（水・祝）～2月15日（日）

令和8年2月11日（水・祝）13時30分～15時30分

会場 磐田市立中央図書館 一展示、学習会ともー

※歴史学習会の詳細は「広報 いわた」令和8年1月号に掲載します

江戸時代の
地図を持って

令和7年度
ふるさと歴史たんけん隊

見付宿を歩こう

昔のまちなみを想像しながら、見付のまちを歩いてみませんか。
かつて東海道の宿場町として栄えた見付。江戸時代の地図を片手に、昔からあるお寺などを巡ります。

令和7年11月8日(土)
9時30分～11時30分

- 集合場所 見付交流センター（磐田市見付 2385-10）
- 対象 市内小学校5・6年生とその保護者
- 定員 親子10組（こどものみの参加も可）
応募者多数の場合は抽選
- 参加費 100円（保険代等）
- その他 飲み物持参、歩きやすい服装でご参加ください
荒天中止（中止の場合はご連絡します）
- 申込み 10月9日（木）まで電子申請にて受付
※右、二次元コードから申込みいただけます
- 問合せ先 文化財課 電話 0538-32-9699



予定コース

スタート：見付交流センター（見付 2385-10）

ゴール：見付宿脇本陣大三河屋門（見付 2595）

※駐車場は、見付駐車場（見付 2353-1）をご利用ください

見付交流センター ⇒ 大見寺 ⇒ 宣光寺
⇒ 旧見付学校 ⇒ 淡海国玉神社
⇒ 見付宿脇本陣大三河屋門（1.5 kmほど歩きます）

各ポイントでクイズに挑戦！
当日のガイドは、文化財課職員です。



しゅべい ©磐田市

今年もやります！

遠江国分寺まつり

国分寺は、奈良時代に聖武天皇が、仏教の力で国が安定することを願い、全国各地に建てた寺院です。遠江国分寺跡は、国分寺としては全国に3箇所しかない国の特別史跡のひとつです。この機会に遠江国分寺跡を訪れてみませんか。

日時 10月25日(土) 9時～15時30分

(雨天時翌日に順延)

場所 遠江国分寺跡史跡公園(市役所北側)



国分寺跡展望・復元基壇見学ツアー(無料)

上空からみた遠江国分寺史跡公園

市役所6階から史跡の全景を一望できる絶好の機会です。(申込み不要)

■集合 文化財課テント ■出発時間 10時、11時、13時30分 ■所要時間 50分

主催 国分寺まつり実行委員会

まつりホームページはこちら⇒

問合せ先 文化財課事業 電話 0538-32-9699 (文化財課)

国分寺まつり 電話 090-9021-1327 (実行委員会 今井)



職員リレー コラム

天然記念物と中世石塔

木村 弘之

令和5年度末に歴史文書館長職の任を終え、現在、管理グループで再任用職員として勤務しています。20年前にも管理係(当時)で業務をおこなった経験もありますが、その頃とは、随分業務の流れが変わり、年月の経つ速さに戸惑いつつ、日々、業務に携わっている今日この頃です。

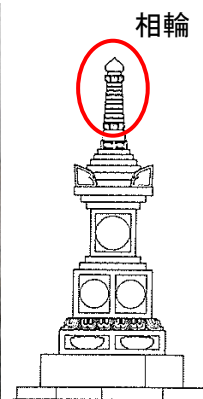
さて、そんな業務の一つに、「天然記念物の管理」があります。これは、国、県、市で指定された天然記念物の生育具合を観察するものです。植物も人間と同じように体調の悪い時や良い時があります。定期的に肥料を撒き、生育が悪い時など樹木の専門家に相談しています。

昨年、市指定天然記念物「一色のイヌマキ」を樹木の専門家といっしょに観察調査していた時のことです。ふと、脇の祠を覗くと「宝篋印塔」(※1)の相輪(※2)が祀られているのを見て、長年石塔に興味を持ち調べていることもあり、つい衝動にかられ、こちらの観察もしてしまいました。かつてここには「佛徳山 智泉庵」(前身の「草庵」は16世紀末築造)がありました。このイヌマキの樹齢は500年と言われています。樹齢、「宝篋印塔」と草庵築造の年代がほぼ合致するのは偶然のことでしょうか。

(※1)墓標や供養のために建てられたもの。仏塔の一種。(※2)塔や仏塔の上部にある装飾



祠の「相輪」



宝篋印塔
吉川弘文館

「歴史手帳」引用

編集後記 天高く馬肥ゆる秋、秋も文化財課はイベント盛り沢山です。歴史文書館の企画展に、ふるさと歴史たんけん隊、国分寺まつり！ぜひ、文化の秋をお楽しみください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより



検索